

東浦中学校・東浦文化広場基本構想 概要版

第1章 背景・目的等

東浦中学校・東浦文化広場基本構想では、施設整備に向け、施設の基本的な考え方、整備場所（敷地）、導入機能などについて検討します。

第2章 東浦中学校（施設）の課題と再配置計画

1 東浦中学校(施設)の課題

- ① 建物の老朽化 ②立地(学区) ③災害ハザード

2 再配置計画について

【基本方針】

- 1 拠点形成によるすべての町民サービスの向上
- 2 水害等の災害への対応能力の向上
- 3 東浦町の将来人口を見据えた公共施設規模の実現

【複合化・集約化の効果】

- ①機能の異なる施設間の相乗効果の創出、コミュニティ拠点の形成
- ②合理性・効率性の最大化
- ③コスト縮減(経済効果)

【再編案】

【全町拠点】

複合する施設	全町拠点①	全町拠点②+③
	東浦町役場 半田消防署東浦支署	中央図書館 文化センター 勤労福祉会館 東浦文化広場(はなのき会館) 郷土資料館 総合ボランティアセンター 保健センター 福祉センター 高齢者相談支援センター 総合子育て支援センター なかよし学園
候補地	現東浦町役場敷地	現東浦中学校及び周辺敷地 (災害時にはある程度の休業が許容される施設の設置は対策を実施のうえ、可能であると判断)

【東浦中学校】

複合する施設	東浦中学校 東浦文化広場	モデル事業としての方策案検討 以下は、目標・基本方針を達成するための方策案を示しています。
		敷地面積 45,385m ² 複合施設延床面積 約 10,168m ² 既存施設延床面積 15,854m ² 削減面積 約5,686m ² (約36%)
候補地	現東浦文化広場 敷地	【今後の検討事項】 地域住民が利用する体育館と学校施設が複合化するため、面積削減やコスト削減だけでなく、“学校と地域・社会が支え合い協働する”といった共創空間の創出など、新たな学びの形、コミュニティ拠点のあり方の検討が必要 等

第3章 東浦中学校移転・複合化の検討

- 1 東浦中学校の現地建て替えにおける懸念点
東浦中学校の建替えに際しては移転だけでなく現位置も想定されます。ただし、以下の観点での懸念点を踏まえ、現位置建替えではなく移転する方針とします。

- ①災害ハザード
- ②立地(学区)・通学距離
- ③授業継続
- ④コスト・工期

- 2 移転候補地の前提条件
東浦中学校の移転候補地は課題や現状を踏まえ、以下の前提条件とします。

- ### 条件① 水害ハザードの改善

- 条件② より学区の中心地となる敷地

- ### 条件③ 市街化区域内での検討

- 3 移転候補地の抽出 ⇒ 東浦文化広場敷地のみが該当



第4章 東浦中学校・東浦文化広場基本構想

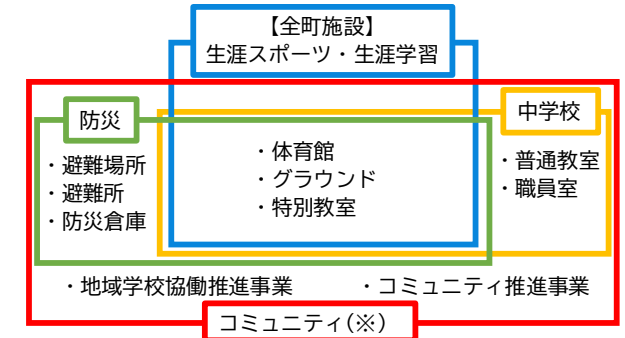
1 東浦中学校及び東浦文化広場の施設概要

2 施設の基本的な考え方

学校機能と社会体育機能等の複合化による地域の拠点形成	災害への対応能力向上	東浦町教育大綱の推進
----------------------------	------------	------------

3 導入機能(案)の検討

【導入機能(案)のイメージ】



(※)本構想におけるコミュニティとは東浦中学校区におけるコミュニティを基本とします。なお、東浦中学校・東浦文化広場の体育館及びグラウンドは、町総合体育館及び町総合グラウンドの位置づけとしています。

4 配置パターン検討(概要)

建物の配置について、複数のパターンに分けて検討しました。他に考えられるパターンも含め、基本計画策定の過程にて改めて検討します。

第5章 今後の検討事項

- ## 1 基本計画以降に検討すべき事項の整理

- (1)地域と中学校の複合による諸室等の共用について
- (2)導入機能の詳細について
- (3)東浦中学校の教育のあり方
- (4)安全性の確保について
- (5)今後の物価高騰などを踏まえた費用の算出
- (6)周辺道路整備について

- ## 2 今後のスケジュール ※現時点のスケジュール

今後のスケジュールは基本計画策定時に「官民連携する場合」と「直営の場合」のどちらかになります。

[illegible]